

教 科	家庭	科 目	家庭総合 I	単位数	2 / 4
学 年	1 年	教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）		
学 科	生活科学科	副教材	家庭科ノート（愛媛県高等学校家庭科教育研究会）		

学習目標	① 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。 ② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭・地域の生活向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	家庭科の学び① 1 生涯を見通す 2 経済生活を営む 3 衣生活をつくる	・学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解を深めます。 ・生涯発達の視点に立って、生涯の生活設計や青年期の自立について生き方を考え、学びます。 ・経済計画や消費行動、意思決定、環境について学び、契約・家計管理を理解を深めます。 ・基礎縫いを理解し、被服製作技術検定 3 級の取得を目指します。 ・ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解実践します。
2	3 持続可能な生活を営む 4 衣生活をつくる 家庭科の学び②	・環境に配慮し、持続可能な社会を目指したライフスタイルと生涯を見通した生活設計について考えます。 ・被服の機能や被服材料、被服管理、被服製作の基礎を学び、被服製作技術検定 2 級の取得を目指します。
3	5 子どもと共に育つ	・乳幼児期の心身の発達と生活、遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深めます。 ・子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子どもの福祉について理解し学びます。
課題	① 通常授業時の課題： プリント・ノート、小テスト、検定実技に関する学習 ② 夏季休業中の課題： ホームプロジェクト（家庭生活に関する問題解決学習） ③ 冬季休業中の課題： 生活に関するレポート、プリント	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭科の学び	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	・生活上の課題について課題見出し、解決する力を身に付けている。	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を通して、生活を工夫・想像し、実践しようとしている。

評価方法	・ノート記述内容 ・定期考査	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動への取組状況	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動への取組状況
1 生涯を見通す	・各ライフステージの特徴と課題、青年期の自立、意思決定の重要性について理解している。	・生涯を見通した自己の生活について課題を見出し、解決する力を身に付けている。	・生涯の生活設計について、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。
評価方法	・定期考査	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・発言内容 ・ノート・プリント記述内容
2 経済生活を営む	・消費生活の現状と課題、契約、消費者の自立と支援、家計の構造、家計管理について理解している。	・責任ある消費、家計管理について課題を見出し、解決する力を身に付けている。	・経済生活の課題解決に向けて、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・発言内容 ・ノート・プリント記述内容
3 持続可能な生活を営む	・生活と環境の関わり、持続可能な消費について理解している。	・現代の消費やライフスタイルについて課題を見出し、解決する力を身に付けている。	・持続可能な生活の実現に向けて、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。
評価方法	・定期考査	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・発言内容 ・ノート・プリント記述内容
4 衣生活をつくる	・被服の機能、被服材料、被服管理、被服製作、衣生活文化について、理解している。 ・被服技術検定合格に必要な製作技術を身に付けている。	・目的や個性に応じた、健康で快適・機能的な着装や製作について課題を見出し、解決する力を身に付けている。	・衣生活を取り巻く課題の解決に向けて、生活を工夫・創造し、実践しようとしている。 ・被服技術検定合格に向けて、主体的に製作活動に取り組もうとしている。
評価方法	・問題集 ・定期考査 ・技術検定	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査 ・技術検定への取組状況	・発言内容 ・ノート・プリント記述内容 ・技術検定への取組状況
5 子どもと共に育つ	・乳幼児期の心身の発達と生活、遊びと文化、保育について、理解している。	・子どもとの適切な関わり方について、解決策を構想し、考察したことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい社会の構築に向けて、子どもとの関わりと保育・福祉について自分や家庭、地域の生活向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・発言内容 ・ノート・プリント記述内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	家庭科	科 目	家庭総合Ⅱ	単位数	2 / 4
学 年	1	教科書	家庭総合 自立・共生・創造		
学 科	生活科学科	副教材	家庭科ノート（愛媛県高等学校家庭科研究会） 調理実習ノート基礎編（愛媛県高等学校家庭科研究会）		

学習目標	① 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住などに関する知識と技術を習得します。 ② 検定・実習などを通して生活の中で応用する力を育成します。 ③ 生活に関わる課題を主体的に解決する考え方を学びます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 食生活をつくる①	・調理の基礎的な知識や技術を身に付けます。 ・栄養素の機能や食品の特徴を学びます。 ・食物検定3級の合格を目指します。
	2 人生をつくる	・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律について学び、家族・家庭の意義や社会との関わりについて理解を深める。
2	1 食生活をつくる②	・自分と家族の食生活を計画・管理できるよう学びます。 ・食物検定2級の合格を目指します。
	3 超高齢社会を共に生きる	・高齢者の心身の特徴について学びます。 ・高齢者の自立生活の支援や介護について学びます。
3	4 共に生き、共に支える	・家庭・家族の生活を支える福祉や社会支援について学びます。
	5 住生活をつくる	・住生活の変遷と機能、安全で快適な住生活、住文化について学び、生涯を見通した住生活の計画・管理ができるようにする。
	6 これからの生活を創造する	・各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。
課題	① 予習・復習…教科書、プリントを用いて予習・復習をします。 ② 夏休み課題…ホームプロジェクト（課題解決学習）を実践します。 ③ 冬休み課題…課題プリントを完成させます。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 食生活をつくる	・栄養素や食品の栄養的特徴について理解する。 ・食生活の自立に必要な知識と技術を身に付ける。 ・食物検定4・3級の実施により調理の基礎的な知識や技術を身に付けます。	・食事の意義や食生活の課題、環境の変化などを考察する。 ・安全で衛生的な食生活を送るために食品の選び方や保存方法について考える。	・自分や家族が健康に過ごせるように食生活に役立つことを考えようとしている。 ・日本の食文化の特徴に関心を持ち、文化継承について考えようとしている。
評価方法	・ノート・プリントへの記述内容 ・小テスト ・定期考査	・ノート・プリントへの記述内容 ・定期考査	・ノート・プリントへの記述内容 ・発表

2 人生をつくる	・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭に関わる法律、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解している。	・社会における家族・家庭の在り方について課題を見出し、解決する力を身に付けている。	・家族・家庭を取り巻く社会的課題に関心を持ち、その解決について考えようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・発言内容 ・ノート・プリント記述内容
3 超高齢社会を共に生きる	・高齢者の心身の特徴を理解する。 ・家庭生活における介護・介助方法について身に付ける。 ・介護保険法について理解する。	・高齢者が生きがいを持って生活するために、家族に何ができるのか考察する。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。	・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方について考えようとしている。
評価方法	・ノート・プリントへの記述内容 ・定期考査	・ノート・プリントへの記述内容 ・定期考査	・ノート・プリントへの記述内容 ・発表
4 共に生き、共に支える	・国・地方公共団体の制度などの支援体制、構造について理解する。	・社会の一員として支え合って生活することの重要性を考察する。 ・共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たしたらよいか考える。	・身近にあるバリアフリーやユニバーサルデザインについて関心を広げ、生活に関連付けることができる。
評価方法	・ノート・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・ノート・プリントへの記述内容 ・発表
5 住生活をつくる	・住生活の変遷と機能、安全で快適な住生活、住文化、住生活を取り巻く課題について、理解している。 ・住空間の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	・住生活と取り巻く課題を見出し、解決する力を身に付けている。	・住生活を取り巻く課題に関心を持ち、その解決について考えようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・発言内容 ・ノート・プリント記述内容 ・実習への取組状況
6 これからの生活を創造する	・自立した生活を営むために必要な情報の収集整理を行い、ライフイベントやその課題について理解している。	・ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想する力を身に付けている。	・ライフプランをたてる際の課題に関心を持ち、その解決について考えようとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・ノート・プリント記述内容 ・定期考査	・発言内容 ・ノート・プリント記述内容 ・実習への取組状況

内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。

教 科	農 業	科 目	農 業 と 環 境	単位数	2
学 年	1 年	教科書	農 業 と 環 境（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①農業生物の育成と環境の保全についての体験的・探究的な学習を通して、農業及び環境に関する学習について、興味と関心を高めます。 ②科学的思考力と問題解決能力を育成し、農業及び環境に関する基本的な知識と技術を習得させ、農業の各分野で活躍する能力と態度を育てます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 農業学習と学校農業クラブ	・プロジェクト学習の方法、学校農業クラブ活動の目標、内容、組織、実践方法について学びます。
	2 夏野菜の栽培 (1) トウモロコシ・エダマメ(果菜類) の栽培プロジェクト (2) 生産物の調理・加工のホームプロジェクト	・栽培プロジェクトを通して、栽培知識・技術を習得し、栽培から調理・加工、持続可能な農業生産、プロジェクト学習を実践します。 ・レポートの作成をします。
2	3 冬野菜の栽培 (1) キャベツ・ブロッコリー・ジャガイモ・カブ・チンゲンサイ(葉茎菜類・根菜類)の栽培プロジェクト (2) 生産物の調理・加工のホームプロジェクト	・栽培プロジェクトを通して、栽培知識・技術を習得し、栽培から調理・加工、持続可能な農業生産、プロジェクト学習を実践します。 ・レポートの作成をします。
	4 カブの加工実習	・加工の技術を身に付けます。
3	5 栽培の基礎	・作物の生理・生態的特性、栽培環境について学びます。
	6 環境の調査・保全・創造	・地域の気象、土壌などの環境を観察します。
	7 ジャガイモの加工実習	・加工の技術を身に付けます。
	8 プロジェクト学習のまとめ	・レポート、プレゼンテーションを作成します。
課題	①各学期ごとに、栽培した野菜とその活用方法のレポートを作成。 ②栽培している野菜の管理や生育調査。 ③「農業と環境」の授業と実習中に学んだ重要語句調べ。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 農業学習と学校農業クラブ	農業学習や学校農業クラブ活動の目標、内容、組織、実践方法について理解させる。	農業学習と学校農業クラブについて、基礎的な知識を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業や農業クラブ活動に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。

評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、ノートの提出 授業への取組、出席状況
2 夏野菜の栽培	夏野菜栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	夏野菜栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	夏野菜栽培に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、ノートの提出 授業への取組、出席状況
3 冬野菜の栽培	冬野菜栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	冬野菜栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	冬野菜栽培に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、ノートの提出 授業への取組、出席状況
4 カブの加工実習	野菜栽培の加工に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	野菜の加工に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	野菜の加工に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、ノートの提出 授業への取組、出席状況
5 栽培の基礎	野菜の栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	野菜の栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	野菜の加工に関心を持ち、課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、ノートの提出 授業への取組、出席状況
6 環境の調査・保全・創造	自然環境に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	自然環境に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	環境問題に対して関心を持ち、課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、ノートの提出 授業への取組、出席状況
7 ジャガイモの加工実習	野菜の加工に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	加工に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	野菜の加工に関心を持ち、課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。

評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、ノートの提出 授業への取組、出席状況
8 プロジェクト学習のまとめ	プロジェクト学習の目的や結果について理解している。	プロジェクト学習のまとめ方を理解し、結果や考察を基に合理的に判断し表現できている。	プロジェクト学習を通して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	レポート作成	レポート作成	課題、ノートの提出 授業への取組、出席状況
内容のまとまりごとに、学習活動の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業と情報	単位数	2
学 年	1 年	教科書	農業と情報（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	① 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけます。 ② 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養います。 ③ 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	第1章 私たちの生活と農業の情報化 第2章 社会を支えるコンピュータ	・私たちの生活における情報とメディアの特徴を学習し、適切な情報活用について理解を深めます。 ・農業を支える情報を学習し、農業に応用できる情報を考える能力を養います。 ・コンピュータの物理的な構成を理解します。また、データや情報の表現方法を理解することで適切なソフトウェアを活用する能力を身に付けます。 ・情報通信ネットワーク、インターネットに関する学習を行い、その特徴を理解します。 ・情報セキュリティに関する学習を行い、コンピュータウイルスやその他の脅威に対する防御能力を身に付けます。
2	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 第4章 スマート農業への展望	・正確な情報収集と記録の重要性を学習し、ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。 ・近年の情報技術の発展による自動管理システム、ドローンの利用、その他自動化システムの仕組みを理解します。 ・スマート農業の仕組みと理解と基本的なシステムの設計やプログラミング、人工知能について学びます。
3	第6章 農業学習と情報活用	・プロジェクト学習及び発表等で必要となる情報処理能力を身に付けます。
課題	①通常授業に関する課題（タイピング練習、小テスト、調べ学習等） ②夏季休業中課題（情報セキュリティに関するレポート作成） ③冬季休業中課題（ソフトウェア活用技術に関するレポート作成、検定試験対策等）	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 私たちの生活と農業の情報化	情報化する社会において情報とメディアの特徴を理解し、情報を円滑に活用していく知識を身に付け、情報モラルを身に付けている。また、農業を支える情報の存在を理解できている。	適切なメディアの活用方法を判断することができる。また、情報モラルを遵守することの重要性を思考し、情報リテラシーを理解した上で自らの意見を表現している。農業を支える情報の存在を考え表現している。	情報化社会の進展と情報の意義に関心を持ち、農業と情報技術との関わりについて探求しようとしている。

評価方法	小テスト、定期考査	小テスト、定期考査、レポートの記述内容、発言内容	課題への取組、レポート、ワークシートへの記述内容、授業態度、発言内容
第2章 社会を支えるコンピュータ	コンピュータの基本的な構成を理解している。また、情報通信ネットワークやインターネットの特徴を知り、情報セキュリティに留意した情報活用技術を身に付けている。	コンピュータの基本構造を理解した上で、情報通信ネットワークやインターネットにおける留意点を思考し、判断できている。情報セキュリティを理解し、場面に応じて判断できる。	コンピュータの構造について主体的に理解しようと努め、情報モラルについて科学的に探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査	小テスト、定期考査、レポートの記述内容、発言内容	課題への取組、レポート、ワークシートへの記述内容、授業態度、発言内容
第3章 コミュニケーションと情報デザイン	情報の受け手に配慮した正確な情報収集と記録の重要性を理解している。また、各種ソフトウェアの内容を理解し、活用技術を身に付けている。	正確な情報収集と記録の重要性について思考し、判断できている。場面に応じてソフトウェアの活用方法を使い分けることができる。	情報表現とソフトウェアの活用について主体的に理解しようと努め、各種ソフトウェアの活用技術の習得に向けて探求しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技、発表内容	課題への取組、授業態度、発言内容、検定への取組
第4章 スマート農業への展望	スマート農業のしくみや目標を理解している。また、システム開発やプログラム設計のしくみを理解し、活用技術を身に付けている。	スマート農業の有用性を理解し、実際の農業現場における活用方法について思考し、考えを表現できている。	実際の農業現場における課題を認識し、情報技術を活用した解決方法について科学的に探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査	小テスト、定期考査、レポートの記述内容、発言内容	課題への取組、レポート、ワークシートへの記述内容、授業態度、発言内容
第6章 農業学習と情報活用	農業学習とプロジェクト学習において活用できる、情報処理技術を身に付けている。	農業学習の特徴を理解した上で、プロジェクト学習に必要な情報活用技術について思考し、判断、表現できている。	プロジェクト学習に主体的に取り組み、プロジェクト学習における情報処理技術について探求しようとしている。
評価方法	発表内容、定期考査	発表準備・内容、定期考査、ワークシートの記述内容	課題への取組、レポート、授業態度、発言内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習	単位数	2
学 年	1 年	教科書	なし		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①農業の各分野における体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深めるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てます。 ②家庭科に関する専門的な技術を習得し、実践的な能力と態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 野菜栽培に関する内容 (1) 夏野菜の栽培 (果菜類) トウモロコシ・エダマメの栽培 1 家庭科技術検定への取組 (1) 被服製作4級実技の練習	・トウモロコシ・エダマメに関する知識や栽培技術を習得します。 ・調理・加工など、活用法を考え実践します。 ・ミシンと手縫いの基礎縫いを習得します。
2	2 野菜栽培に関する内容 (1) 冬野菜の栽培 (葉茎菜類と根菜類) キャベツ、ブロッコリー、カブ、チンゲンサイの栽培 3 農業情報処理に関する内容 (1) ワープロソフトウェア (2) 表計算ソフトウェア 2 家庭科技術検定への取組 (1) 被服製作3級実技の練習 (2) 食物調理3級実技の練習	・キャベツ・ブロッコリー・カブ・チンゲンサイに関する知識や栽培技術を習得します。 ・調理・加工など、活用法を考え実践します。 ・栽培に関するデータを適切に処理する能力を身に付けます。 ・農業にパソコンを利用する能力を身に付けます。 ・アウターパンツ製作の知識・技術を習得します。 ・3級の指定調理を作ります。
3	4 プロジェクト活動に関する内容 (1) レポートのまとめ 5 農業クラブ活動への参加(1年間) 意見発表会・農業鑑定競技会に向けての学習	・プロジェクト学習に積極的に参加します。 ・活動内容・データを適切に処理し、結論を導き出す力を身に付けます。 ・農業クラブ活動に積極的に参加する姿勢を身に付けます。
課題	①レポートの作成 ②農業クラブ意見発表会の発表原稿の作成 ③農業鑑定競技会の事前学習ノートの作成	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 野菜栽培に関する内容 (1) 夏野菜の栽培 (果菜類)	夏野菜栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	夏野菜栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	夏野菜栽培に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
2 野菜栽培に関する内容 (1) 冬野菜の栽培 (葉茎菜類と根菜類) キャベツ、ブロッコリー、カブ、チンゲンサイの栽培	冬野菜栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	冬野菜栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	冬野菜栽培に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
3 農業情報処理に関する内容 (1) ワープロソフトウェア (2) 表計算ソフトウェア	栽培に関するデータを適切に処理する能力を理解している。 農業にパソコンを利用する能力を理解させる。	情報処理に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、表現する力を身に付けている。	情報機器を活用して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
4 プロジェクト活動に関する内容	プロジェクト学習に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	プロジェクト学習に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	プロジェクト学習を通して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
5 農業クラブ活動への参加（1年間） 意見発表会・農業鑑 定競技会に向けての 学習	プロジェクト学習の目的や結果について理解している。	プロジェクト学習のまとめ方を理解し、結果や考察を基に合理的に判断し表現できている。	プロジェクト学習を通して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	記録簿の作成	記録簿の作成	ノート提出、出席状況 授業への取組
内容のまとまりごとに、学習活動の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業と情報	単位数	2
学 年	2 学年	教科書	農業と情報（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連技術を身に付ける。 ②農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用できるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 文書の作成と表現	・文書ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。
2	2 データ集計と視覚化 3 データベースシステムとオープンデータ	・表計算ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。
3	4 画像・図形処理ソフトウェアの利用	・画像・図形処理ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。
課題	①通常授業に関する課題（タイピング練習、小テスト、調べ学習等） ②夏季休業中課題（情報セキュリティに関するレポート作成） ③冬季休業中課題（ソフトウェア活用技術に関するレポート作成、検定試験対策等）	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 文書の作成と表現	文書処理ソフトウェアを活用して、農業情報や環境情報を活用する効果的な手法について理解している。	文書処理ソフトウェアに関する基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に関心を持ち、文書作成技術について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技 発表内容	課題への取組、授業態度、 発言内容、検定への取組
2 データ集計と視覚化	表計算ソフトウェアを活用して、農業情報や環境情報を活用する効果的な手法について理解している。	表計算ソフトウェアに関する基礎的な知識と技術を基に合理的に判断しその過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に関心を持ち、データ集計や視覚化技術について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技 発表内容	課題への取組、授業態度、 発言内容、検定への取組

3 データベースシステムとオープンデータ	データベースを活用して、農業情報や環境情報を活用する効果的な手法について理解している。	データベース活用に関する基礎的な知識と技術を基に合理的に判断しその過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に関心を持ち、データ処理やデータベース化する知識や技術について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技 発表内容	課題への取組、授業態度、 発言内容、検定への取組
4 画像・図形処理ソフトウェアの利用	画像・図形処理ソフトウェアを活用して、農業情報や環境情報を活用する効果的な手法について理解している。	画像・図形処理ソフトウェアに関する基礎的な知識と技術を基に合理的に判断しその過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に関心を持ち、画像・図形処理技術について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技 発表内容	課題への取組、授業態度、 発言内容、検定への取組
内容のまとまりごとに、学習活動の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	生物活用	単位数	2
学 年	2 年	教科書	生物活用（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①園芸作物（主に野菜）の活用に必要な知識と技術を習得します。 ②園芸作物（主に野菜）の特性を活用した活動や療法の特質を理解するとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を身に付けます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 私たちの暮らしと野菜の活用 2 野菜の栽培計画と管理 3 夏野菜の栽培 (1) オクラ・トマト(果菜類)の栽培プロジェクト (2) 幼児との交流活動 (3) イチゴの加工実習 (4) 生産物の調理・加工のホームプロジェクト	・園芸作物のうち野菜を取り上げ、実際に栽培プロジェクトを通して、栽培知識・技術を習得し、栽培から調理・加工・利用、持続可能な農業生産、プロジェクト学習を実践します。 ・交流活動を企画・実施する能力や必要な技術を身に付け、コミュニケーション能力を高めます。 ・レポートの作成をします。
2	4 冬野菜の栽培 (1) ハクサイ・ダイコン・ホウレンソウの栽培プロジェクト (2) タマネギの栽培 (3) 幼児との交流活動 (4) 漬け物加工実習 (5) 生産物の調理・加工のホームプロジェクト	・園芸作物のうち野菜を取り上げ、実際に栽培プロジェクトを通して、栽培知識・技術を習得し、栽培から調理・加工・利用、持続可能な農業生産、プロジェクト学習を実践します。 ・交流活動を企画・実施する能力や必要な技術を身に付け、コミュニケーション能力を高めます。 ・レポートの作成をします。
3	5 野菜の加工・利用 6 ハーブの活用 7 コンテナ栽培 8 キッチンガーデン 9 プロジェクト学習のまとめ	・野菜の貯蔵・加工に関する知識と技術を習得します。 ・ハーブの栽培に関する知識と技術を習得します。 ・容器栽培に関する知識と技術を習得します。 ・キッチンガーデンに関する知識と技術を習得します。 ・レポート、プレゼンテーションを作成します。
課題	①栽培している野菜の管理や生育調査。 ②「生物活用」の授業と実習中に学んだ重要語句調べ。 ③毎学期栽培した野菜についてのレポートの作成。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 私たちの暮らしと野菜の活用	野菜の基礎的・基本的な知識を身に付け、野菜がどのように暮らしに関係しているか理解している。	暮らしの中で野菜を活用する基礎的な知識を基に合理的に判断し、生活における活用方法を適切に表現している。	私たちの生活における野菜の活用方法に関心を持ち、課題の解決について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート

2 野菜の栽培計画と管理	野菜の特徴や栽培技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、計画を立て実践する目的について理解している。	野菜の栽培過程で考えられる課題の解決を目指して計画を立案し思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、適切に表現している。	野菜の栽培や活用方法に関心を持ち栽培計画を立て、栽培中におこる課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
3 夏野菜の栽培	夏野菜に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、プロジェクト学習や栽培・実験・調査などの目的や結果について理解している。	夏野菜の栽培過程でおこる課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、適切に表現している。	野菜栽培や私たちの生活における野菜の活用方法に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
4 冬野菜の栽培	冬野菜に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、プロジェクト学習や栽培・実験・調査などの目的や結果について理解している。	冬野菜の栽培過程でおこる課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、適切に表現している。	野菜栽培や私たちの生活における野菜の活用方法に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
5 野菜の加工・利用	野菜の貯蔵・加工に関する基本的な知識と技術を身に付け、さまざまな活用方法があることを理解している。	野菜の貯蔵・加工方法の基礎的な知識・技術を基に活用方法を合理的に判断できている。	野菜の貯蔵と加工の技術の習得を目指し、積極的に探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
6 ハーブの活用	ハーブ栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、プロジェクト学習や栽培や活用の目的や結果について理解している。	ハーブの栽培過程での基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、適切に表現している。	ハーブ栽培や活用方法に関心を持ち、課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
7 コンテナ栽培	コンテナ栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、プロジェクト学習や栽培・実験・調査などの目的や結果について理解している。	コンテナ栽培の基本的な知識と技術を基に合理的に判断し、適切に表現している。	野菜のコンテナ栽培やその活用方法に関心を持ち、課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。

評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
8 キッチンガーデン	キッチンガーデンに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、プロジェクト学習や栽培・実験・調査などの目的や結果について理解している。	キッチンガーデンの基本的な知識と技術を基に合理的に判断し、適切に表現している。	キッチンガーデンに関心を持ち、課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
9 プロジェクト学習のまとめ	プロジェクト学習の目的や結果について理解している。	プロジェクト学習のまとめ方を理解し、結果や考察を基に合理的に判断し表現できている。	プロジェクト学習を通して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	レポート作成 プレゼンテーション作成	レポート作成 プレゼンテーション作成	課題、レポート、ノート記入、発問への対応等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において、ＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習	単位数	1
学 年	2 年	教科書	なし		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①農業の各分野における体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深めるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てます。 ②家庭科に関する専門的な技術を習得し、実践的な能力と態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 野菜栽培に関する内容 (1) 夏野菜の栽培(果菜類) スイカ・トマトの栽培 1 家庭科技術検定の取組 (1) 食物調理 2 級実技の練習	・スイカ、トマトに関する知識や栽培技術を習得します。 ・調理・加工など、活用法を考え実践します。 ・2 級の指定調理を作ります。
2	2 野菜栽培に関する内容 (1) 冬野菜の栽培(葉茎菜類と根菜類) ハクサイ、ダイコン、ホウレンソウの栽培 3 農業情報処理に関する内容 (1) ワープロソフトウェア (2) 表計算ソフトウェア	・ハクサイ・ダイコン・ホウレンソウに関する知識や栽培技術を習得します。 ・調理・加工など、活用法を考え実践します。 ・栽培に関するデータを適切に処理する能力を身に付けます。 ・農業にパソコンを利用する能力を身に付けます。
3	5 プロジェクト活動に関する内容 (1) レポートのまとめ 6 農業クラブ活動への参加(1年間) 意見発表会・農業鑑定競技会に向けての学習	・プロジェクト学習に積極的に参加します。 ・活動内容・データを適切に処理し、結論を導き出す力を身に付けます。 ・農業クラブ活動に積極的に参加する姿勢を身に付けます。
課題	①レポートの作成 ②農業クラブ意見発表会の発表原稿の作成 ③農業鑑定競技会の事前学習ノートの作成	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 野菜栽培に関する内容 (1) 夏野菜の栽培(果菜類)	夏野菜栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	夏野菜栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	夏野菜栽培に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組

2 野菜栽培に関する内容 (1) 冬野菜の栽培 (葉茎菜類と根菜類)	冬野菜栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	冬野菜栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	冬野菜栽培に関心を持ち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
3 農業情報処理に関する内容 (1) ワープロソフトウェア (2) 表計算ソフトウェア	栽培に関するデータを適切に処理する能力を理解している。 農業にパソコンを利用する能力を理解させる。	情報処理に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、表現する力を身に付けている。	情報機器を活用して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
4 プロジェクト活動に関する内容	プロジェクト学習に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	プロジェクト学習に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	プロジェクト学習を通して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
5 農業クラブ活動への参加（1年間） 意見発表会・農業鑑 定競技会に向けての 学習	プロジェクト学習の目的や結果について理解している。	プロジェクト学習のまとめ方を理解し、結果や考察を基に合理的に判断し表現できている。	プロジェクト学習を通して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	記録簿の作成	記録簿の作成	ノート提出、出席状況 授業への取組
内容のまとめりと、学習活動の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、5段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	生活産業基礎	単位数	2
学 年	2	教科書	生活産業基礎（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	① 生活と産業の関わりについて理解し、生活に関連する職業などへの関心を高め、職業観、勤労観を育成します。 ② 各分野におけるスペシャリストとしての必要な専門の知識・技術を習得します。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 「生活産業基礎」を学ぶ 2 生活に対応した商品・サービスの提供 3 食生活関連分野の産業と職業 4 ヒューマンサービス関連分野の産業と職業	・私たちの生活と産業について考えます。 ・商品やサービスの企画・管理・販売について学びます。 ・食生活に関わる仕事について学びます。 ・調理実習を行います ・高齢者や子どもに関わる職業について学びます。 ・保育所を訪問します。
2	5 衣生活関連分野の産業と職業 6 住生活関連分野の産業と職業	・衣生活に関わる仕事について学びます。 ・小物作品を製作します ・住生活に関わる仕事について学びます。 ・住宅展示場を見学します。
3	7 職業生活と実現 8 なりたい自分になるために	・職業や勤労について考えます。 ・将来設計と進路計画の立案をします。
課題	① 予習・復習…教科書、プリント、小テストを用いて予習・復習します。 ② 夏休み課題…職業についての資料をレポートにまとめます。 ③ 冬休み課題…生活産業に関するプリントを完成させます。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「生活産業基礎を学ぶ」	・働くことの社会的な意義や役割を理解できる。	・生産から販売の工程や販売経路の多様化など産業構造の変化を考察できる。	・衣食住や保育、家庭看護、介護の面で具体的な課題を意欲的に考えようとしている。
評価方法	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・発表
生活に対応した商品・サービスの提供	・商品を提供するために必要な手順や関係法規を理解できる。	・消費者行動に合わせた商品やサービスの考察ができる。	・ライフスタイルの変化に対応した商品やサービスの提供について考えようとしている。
評価方法	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・発表内容

ヒューマンサービス 関連分野の産業と職業	・高齢者福祉・児童福祉サービスに関わる職業の意義や役割を理解できる。	・少子高齢化、ライフスタイルの変化や価値観の多様化によるヒューマンサービスの需要の高まりを考察できる。	・介護士や保育士などヒューマンサービスに関する資格について体験活動を通して考えようとしている。
評価方法	・プリントへの記述内容 ・体験活動 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・発表内容
住生活関連分野の産業と職業	・住宅販売、インテリアやリフォームなどに関わる職業の意義や役割について理解できる。	・ライフスタイルやライフステージに合わせた住居が求められる提案の工夫について考察できる。	・建築士やインテリアプランナーなど住生活に関する資格について体験活動を通して考えようとしている。
評価方法	・プリントへの記述内容 ・見学 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・発表内容
食生活関連分野の産業と職業	・外食産業や中食産業、商品流通業に関わる職業の意義や役割を理解できる。	・外食や中食の利用や消費者のニーズに対応した商品開発など食生活の変化について考察できる。	・管理栄養士や調理師など食生活に関する職業の資格について体験活動を通して考えようとしている。
評価方法	・プリントへの記述内容 ・実習 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・発表内容
衣生活関連産業分野の産業と基礎	・アパレル産業やファッション小売り産業に関わる職業の意義や役割を理解できる。	・ファッションビジネスとライフスタイルの変化の関わりを考え、既製品の販売状況や販売形態を考察できる。	・デザイナーやパタンナーなど衣生活に関する職業の資格について体験活動を通して考えようとしている。
評価方法	・プリントへの記述内容 ・実習 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・発表内容
職業生活と自己実現	・適切な職業選択ができるように、求められる責任や資格について理解できる。	・職業を通して将来設計と進路計画を立てることができる。	・自分の個性や特技を生かす職業について意欲的に探求しようとする。
評価方法	・プリントへの記述内容 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述内容 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述内容 ・発表内容
なりたい自分になるために	・プリントへの記述内容	・プリントの記述内容	・プリントの記述内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	保育基礎	単位数	2
学 年	2 年	教科書	保育基礎（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①子供の発達の特性や発達過程、保育に関する知識と技術の習得を目指します。 ②子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ共同的に取り組む態度を育てます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 子どもの保育 2 子どもの発達 保育技術検定 3 級 保育所訪問実習	・子供の保育の方法や環境について学びます。 ・子供の発育・発達の過程やその特徴について学びます。 ・保育技術検定 3 級の取得を目指します。 ・保育所を訪問し、実習を通して子どもの成長や生活について理解を深めます。
2	3 子どもの生活 保育技術検定 2 級 保育所訪問実習	・乳幼児の生活と援助の在り方について学びます。 ・保育技術検定 2 級の取得を目指します。 ・保育所を訪問し、実習を通して子どもの成長や生活について理解を深めます。
3	4 子どもの文化 5 子どもの福祉 保育所訪問実習	・子どもの文化や遊びについて学びます。 ・子どもや親が必要とする社会的支援とその背景について考えます。 ・保育所を訪問し、実習を通して子どもの成長や生活について理解を深めます。
課題	①予習・復習…教科書やノートの見直し、検定実技に関する学習 ②夏休み課題…子どもや保育に関するレポート作成 ③冬休み課題…手作りおもちゃの製作 ④そ の 他…プリント、レポート、小テスト、実技テスト	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 子どもの保育	・ 保育の意義や保育者の役割を理解できる。	・ 保育者の資質や能力を身に付けるにはどのような点に気を付けていけばよいかなど、考察ができる。	・ 適切な子どもとの関わり方について考えようとしている。
評価方法	・ 定期考査	・ プリントの記述内容 ・ 定期考査	・ プリントの記述内容
2 子どもの発達	・ 人の体と心の発達の過程や順序を理解できる。	・ 胎児の生育環境である母体に対する関心と課題を考えることができる。	・ 子どもの心身の発達について関心を持って考えることができる。
評価方法	・ 定期考査 ・ プリントの記述内容	・ プリントの記述内容 ・ 定期考査	・ プリントの記述内容

3 子どもの生活	・子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身に付けている。	・子どもの健康と安全を守るための事故への予防策を考えることができる。	・子どもが生活習慣を身に付けるための援助の方法について思考を深めている。
評価方法	・定期考査 ・実習の取組	・定期考査 ・プリントの記述内容	・プリントの記述内容
4 子どもの文化	・子どもの文化や遊びについて理解し、関連する技術を身に付けることができる。	・子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考えることができる。	・子どもの発達や特性を踏まえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組むことができる。
評価方法	・実習の取組 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容
5 子どもの福祉	・子どもの福祉を支える様々な施設の役割について理解できる。	・子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察できる。	・子どもを取り巻く課題を発見し解決しようとしている。
評価方法	・定期考査	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容
保育所訪問実習	・子どもの発達を考えた関わり方ができる。	・安全に配慮し、子どもと適切に関わり観察することができる。	・子どもの視線に立って関わろうとしている。
評価方法	・実習の取組	・実習の取組 ・レポート	・実習の取組 ・レポート
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	フードデザイン	単位数	2
学 年	2 年	教科書	フードデザイン 新訂版（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	調理実習ノート（愛媛県高等学校家庭科研究会）		

学習目標	① 栄養、食品、献立、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得します。 ② 生徒自身と家族の食生活について総合的に計画し、営む能力と態度を育てます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 食生活と健康	・食事の意義や役割、食の現状を理解します。
	2 調理の基本	・調理についての基本的な知識を身に付けます。
	3 フードデザイン実習	・調理についての基本的な技術を身に付けます。 ・調理実習を行います。
2	4 家庭科技術検定準1級の実施	・検定準1級の合格を目指します。
	5 料理様式とテーブルコーディネート	・料理様式について理解します。 ・テーブルコーディネート実習を行います。 ・調理実習を行います。
3	6 栄養素のはたらきと食事計画	・各年代の特徴を理解し、献立、調理ができます。 ・調理実習を行います。
課題	① 予習・復習・・・教科書やノートの見直し、検定に関する学習 ② 夏休みの課題・・・ホームプロジェクト（家庭生活に関する問題解決学習） ③ 冬休みの課題・・・生活に関するレポート ④ その他・・・ノート、プリント、レポート、小テスト、実技テスト	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食生活と健康	・食事の意義と役割を理解できる。 ・ライフスタイルの変化に伴う食の外部化・簡便化について理解できる。	・食生活を豊かにする食事とはどのようなものか考察できる。	・自分自身の生活の中で健康的に過ごせる食事の在り方について意欲的に学ぼうとしている。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容
調理の基本	・日常食、行事食、供応食などの調理に必要な調理技術の基礎を身につけることができる。 ・調味、加熱、その他の調理操作が、料理のでき	・食物のおいしさは、味・におい・色・テクスチャー・温度などに関わっており、調味や加熱、その他の調理操作が料理のできあがりに与える	・調理の目的について、安全性、栄養、嗜好、心身の健康などの面から関心を持ち、学ぼうとする意欲が感じられる。

	あがりに大きく影響することを理解できる。	影響について嗜好を深めることができる。	
評価方法	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・定期考査	・実習への取組 ・レポートの記述内容
フードデザイン実習	・基礎的な調理題材について、計画し、作ることができる。	・作成した献立に適した食品を選択することができる。	・食の役割に関心を持ち、作るところから食べるところまでを総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身に付けようとする。
評価方法	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・レポートの記述内容	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・定期考査
家庭科技術検定準1級の実施	・食物調理技術検定準1級を実施することにより、基本的技能の習得を図る。	・食品の栄養的特徴を理解して、課題に応じた日常食の献立作成および調理ができる。	・指定調理法、指定材料と分量を用い、主題にあった1人分の献立を作成し、調理することができる。
評価方法	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・小テスト	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・レポートの記述内容	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・レポートの記述内容
料理様式とテーブルコーディネート	・テーブルコーディネートのプランディングを体験することで、コーディネートの必要性を考え、実践することができる。	・適切に判断し、工夫して表現する能力を身に付けている	・料理様式とテーブルコーディネートに関心を持ち、それらを体験的・総合的に身に付けようとする。
評価方法	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・定期考査	・実習への取組 ・レポートの記述内容 ・定期考査	・実習への取組 ・レポートの記述内容
栄養素のはたらきと食事計画	・エネルギーや各栄養素の食事摂取基準について理解できる。 ・各ライフステージごとの栄養の特徴、食生活上の留意事項について理解できる。	・各ライフステージに応じた望ましい食生活を判断することができる。	・食生活の現状とも関わらせながら、「日本人の食事摂取基準」や「食品群別摂取量のめやす」などを活用し、ライフステージに応じた食事計画に生かすことができる。
評価方法	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・小テスト ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組 ・小テスト ・定期考査	・実習への取組 ・レポートの記述内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	ファッション造形基礎	単位数	2
学 年	2 年（選択）	教科書	ファッション造形基礎（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	家庭科問題集 被服編（全国高等学校家庭科教育振興会） 全国高等学校家庭科被服製作技術検定資料集 （全国高等学校家庭科教育振興会）		

学習目標	① 被服の構成、被服材料の種類や特徴など、ファッションに関わる知識を習得し、和・洋服製作の技術を体験的に身に付ける。 ② 被服製作やデザインに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 衣服の構成	・人体と衣服、立体構成と平面構成について学びます。
	2 洋服の製作①	・洋服製作の基礎、洋服の着装について学び、被服製作技術検定準1級（シャツ・ブラウス）の合格を目指します。
2	3 衣服の素材	・被服材料の特徴と性能、用途に応じた被服材料の選択について学びます。
	4 和服の製作①	・和服製作の基礎、簡単な和服の製作について学び、被服製作技術検定準1級（じんべい）の合格を目指します。
3	和服の製作②	・長着の製作について学びます。
課題	① 通常授業時の課題： プリント、検定実技に関する学習 ② 夏季休業中の課題： 技術検定の受検、残布を使った小物製作 ③ 冬季休業中の課題： 技術検定の受検	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の構成	・人体構造と被服の関係性、被服の構成に四つ特徴の違いなどを理解している。	・被服の構成方法による相違や動作のゆるみの関係性について課題を発見し、その課題を解決する力を身に付けている。	・被服の構成について自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習・課題への取組
洋服の製作	・洋服製作の基礎について理解し、洋服（シャツ・ブラウス）製作の技術を身に付けている。	・洋服製作に関する課題を発見し、その課題を解決する力を身に付けている。	・洋服製作の基礎について自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・技術検定への取組状況

	・技術検定		
衣服の素材	・被服材料の種類と特徴について科学的に理解している。	・製作する被服の用途に適した被服材料の性能について課題を発見し、その課題を解決する力を身に付けている。	・被服材料について自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習・課題への取組状況
和服の製作	・和服製作の基礎について理解し、和服（じんべい）製作の技術を身に付けている。	・和服の製作について課題を発見し、その解決する力を身に付けている。	・和服製作の基礎について自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査 ・技術検定	・定期考査	・技術検定への取組状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各楽器の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	課題研究	単位数	4
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	① 農業の各分野について各自テーマを設定し、その課題の解決を図る学習を通じて、専門的な知識と技術の深化を図ります。 ② 自らが取り組むことで、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 計画の立案	・安易な課題設定にならないように留意しながら、テーマに沿った年間計画を立案します。
	2 研究の実践	・計画を確認し、調査、研究、実験、実践、検証等を行います。
2	2 研究の実践	・計画を確認し、調査、研究、実験、実践、検証等を行います。
3	3 発表・報告	・研究の内容や結果をまとめ分析します。 ・課題研究発表会で研究内容を紹介し、研究成果を報告します。 ・レポート作成の方法を習得します。
課題	① 予習・復習…毎回実施した内容を記録簿にまとめて提出します。 ② 夏休み課題…必要に応じて実習をします。 ③ 冬休み課題…必要に応じて実習をします。 ④ ぞ の 他…研究報告書（レポート）を作成して提出します。 農業クラブ活動（農業鑑定、意見発表、プロジェクト発表）に取り組みます	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題研究への取組	・各科目で学習した知識と技術を活用して課題解決に取り組むことで高度な知識と技術を深化・総合化し、全体を体系的・系統的に理解し、身に付けることができる。	・学習の目的や課題を意識しながら計画的に課題解決を図り、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決することができている。	・集合、移動、後片付けが迅速に行える。 ・服装が整っている。 ・期日までに提出物を出すことができる。 ・主体的かつ協力的に活動している。
評価方法	・研究活動への取組 ・記録簿への記述内容 ・レポートへの取組	・研究活動への取組 ・記録簿への記述内容 ・レポートへの取組	・研究活動への取組 ・記録簿への記述内容 ・レポートへの取組
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・日々の学習内容を正しく理解し、意見発表の原稿に記すことができる。	・意見発表の原稿に、日々の学習内容をもとに自らの考えをまとめて意見を述べるができる。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができる。 ・期日までに提出物を出すことができる。
評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・意見発表への取組	意見発表への取組	農業クラブ活動への取組の記録（農業鑑定競技、意見発表、プロジェクト発表）

内容のまとまりごとに、学習活動の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。学期末には各寒天の各観点の評価を統括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を統括し、5段階で評価します。

教 科	農 業	科 目	総合実習	単位数	1
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①農業の各分野における体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深めるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てます。 ②家庭科に関する専門的な技術を習得し、実践的な能力と態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 草花栽培に関する内容 (1) 春播き1年草の栽培 (2) カーネーション栽培	・サルビア、マリーゴールドなどの花壇苗に関する知識や栽培技術を習得します。 ・カーネーション（鉢物の花き）に関する知識や栽培技術を習得します。
2	2 草花栽培に関する内容 (1) 秋播き1年草の栽培 (2) シクラメンの栽培 (3) 木製プランター製作 (4) 寄せ植え 1 食物調理1級実技練習	・パンジー、ビオラなどの花壇苗に関する知識や栽培技術を習得します。 ・シクラメン（鉢物の花き）に関する知識や技術を習得します。 ・プランター製作を通して、木材加工に関する知識や技術を習得します。 ・寄せ植えの知識や栽培技術を習得します。 ・検定1級の指定調理を作ります。
3	3 プロジェクト活動に関する内容 (1) レポートのまとめ 4 農業クラブ活動への参加（1年間）	・プロジェクト学習に積極的に参加します。 ・活動内容・データを適切に処理し、結論を導き出す力を身に付けます。 ・農業クラブ活動に積極的に参加する姿勢を身に付けます。
課題	①レポートの作成 ②農業クラブ意見発表会の発表原稿の作成 ③プロジェクト発表会 ④農業鑑定競技会の事前学習ノートの作成	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 草花栽培に関する内容 (1) 春播き1年草の栽培 (2) カーネーションの栽培	春播き1年草とカーネーションの栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	春播き1年草やカーネーション栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	春播き1年草やカーネーションの栽培に関心をもち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
2 草花栽培に関する内容 (1) 秋播き1年草の栽培 (2) シクラメンの栽培	秋播き1年草とシクラメンの栽培に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	秋播き1年草やシクラメン栽培に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判	秋播き1年草やシクラメン栽培に関心をもち、諸課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。

(3) 木製プランター製作 (4) 寄せ植え	木工や多肉植物の寄せ植えに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付ける。	断し表現する力を身に付けている。 基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、作品を製作する力を身に付けている。	プランター製作、多肉植物の寄せ植えなど、作品製作に取り組もうとしている
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート、作品製作	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
3 プロジェクト活動に関する内容	プロジェクト学習に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付け、研究の意義や役割を理解している。	プロジェクト学習に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する力を身に付けている。	プロジェクト学習を通して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト ワークシート	定期テスト、小テスト ワークシート	ノート提出、出席状況 授業への取組
4 農業クラブ活動への参加（1年間） 意見発表会・農業鑑 定競技会に向けての 学習	プロジェクト学習の目的や結果について理解している。	プロジェクト学習のまとめ方を理解し、結果や考察を基に合理的に判断し表現できている。	プロジェクト学習を通して課題の解決・改善・向上について探求しようとしている。
評価方法	記録簿の作成	記録簿の作成	ノート提出、出席状況 授業への取組
内容のまとめりごとに、学習活動の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業と情報	単位数	2
学 年	3 学年	教科書	農業と情報（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連技術を身に付ける。 ②農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用できるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 情報発信と問題解決方法 2 プレゼンテーション 3 プロジェクト学習と情報発信	・情報発信に関する知識・技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮することの重要性を理解します。 ・プレゼンテーションの知識・技術を活用して、プロジェクト学習の方法を習得します。
2	4 スマート農業のめざす将来 5 システム開発とプログラム設計及び計測と制御 6 リモートセンシングとGIS 7 人工知能 8 農業情報の収集と分析	・情報機器を活用した農業の実践例を習得します。 ・システム開発やプログラミングに関する知識を理解し、その技術を活用した事例を習得します。 ・人工知能を活用し、これからの最新の農業について学習します。
3	8 農業情報の収集と分析	・農業情報を収集・分析し、問題の解決方法を習得します。
課題	①通常授業に関する課題（タイピング練習、小テスト、調べ学習等） ②夏季休業中課題（情報発信に関するレポート作成） ③冬季休業中課題（スマート農業技術に関するレポート作成）	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 情報発信と問題解決方法	情報発信に必要な知識や技術を活用した効果的な手法について理解している。	テーマの課題について知識と技術を基に計画し合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に興味や関心を持ち、情報発信について探求しようとしている。
評価方法	定期考査	定期考査、操作実技 発表内容	課題への取組、授業態度、 発言内容
2 プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトウェアを活用した効果的な手法について理解している。	機器を効果的に活用し合理的に判断しその内容を適切に表現している。	情報機器操作に関心を持ち、視覚化技術を探求しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技 発表内容	課題への取組、授業態度、 発言内容

3プロジェクト学習と情報発信	プレゼンテーションソフトウェアを活用した効果的な手法について理解している。	プロジェクト学習方法に沿って活動し、その成果や課題の解決方法を適切に表現している。	情報機器操作に関心を持ち、視覚化技術を探究しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技 発表内容	課題への取組、授業態度、 発言内容
4スマート農業のめざす将来	機器を活用した最新の農業への技術の導入を理解している。	スマート農業を行う目的や役割を判断し、課題の解決方法を表現している。	農業に関心を持ち、最新の技術を習得し探究しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技	課題への取組、授業態度、
5システム開発とプログラム設計及び計測と制御	プログラム設計や計測に関する知識・技術を理解している	プログラムを行う目的と役割を判断し、効果的に課題の解決する方法を表現している。	様々な場所で利用されているシステムに関心を持ち、最新技術を習得し探究しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、操作実技	課題への取組、授業態度
6リモートセンシングとGIS	機器を活用した最新技術の導入について理解している。	機器の目的や役割を判断し、課題の解決方法を表現している	最新の技術を習得し、探究しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題への取組、授業態度
7人工知能	人工知能（A I）を活用した最新技術について理解している。	人工知能（A I）を活用する目的を理解し、合理的に判断し、適切に表現している。	様々な場所で利用されているA Iに関心を持ち、最新技術を習得し探究しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題への取組、授業態度
8農業情報の収集と分析	機器を農業に導入し、情報をもとに分析する知識を理解している。	収集した情報を合理的に分析・判断し、適切に表現している。	農業に関心を持ち、収集したデータを分析しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題への取組、授業態度
内容のまとめりと、学習活動の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	生物活用	単位数	2
学 年	3 年	教科書	生物活用（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①園芸作物（主に草花）の活用に必要な知識と技術を習得します。 ②園芸作物（主に草花）の特性を活用した活動や療法の特質を理解するとともに、生活の質の向上を図る能力と態度を身に付けます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 草花の栽培と活用① (1) 草花の種類と活用のポイント (2) 春草花の栽培と管理 (3) 鉢花の栽培（カーネーション） (4) 花壇の活用と管理 (5) 作品製作（ハーバリウム） (6) プロジェクト学習のまとめ	・園芸作物のうち春から夏に育苗する草花を取り上げ、実際の栽培プロジェクトを通して、栽培知識・技術を習得し、播種・育苗、栽培についてプロジェクト学習を実践します。 ・鉢花の栽培の知識・技術やハーバリウムなどの作品製作を行い草花の活用方法を学習します ・交流活動を企画・実施する能力や必要な技術を身に付け、コミュニケーション能力を高めます。 ・レポートの作成をします。
2	2 草花の栽培と活用② (1) 秋草花の栽培と管理 (2) 観葉植物の特徴と栽培管理 (3) フラワーデザイン (4) 作品製作（多肉植物の寄せ植え） (5) 花壇制作と交流活動 (6) 室内装飾・都市緑化 (7) プロジェクト学習のまとめ	・園芸作物のうち秋から冬に育苗する草花や室内で栽培する草花を取り上げ、実際に栽培プロジェクトを通して、栽培知識・技術を習得し播種・育苗、栽培についてプロジェクト学習を実践します。 ・フラワーアレンジメントや多肉植物の寄せ植え等、草花の活用法を学習します。 ・交流活動を企画・実施する能力や必要な技術を身に付け、コミュニケーション能力を高めます。 ・レポートの作成をします。
3	3 園芸療法	・草花を利用した園芸療法の知識や技術を学習します。
課題	①栽培している草花の管理や生育調査。 ②「生物活用」の授業と実習中に学んだ重要語句調べ。 ③毎学期栽培した草花についてのレポートの作成。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 草花の栽培と活用①	春草花苗や鉢花の基礎的知識を身に付け、草花がどのように暮らしに関係しているか理解している。	暮らしの中で草花を活用する基礎的な知識を基に合理的に判断し、生活における活用方法を適切に表現している。	私たちの生活における草花の活用方法に関心を持ち、課題の解決について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
1 草花の栽培と活用②	秋草花苗や活用方法の基礎的知識を身に付け、草花がどのように暮らしに関係しているか理解して	秋草花苗や多肉植物を活用方法をデザインや作品製作を通して適切に表現している。	秋草花苗や草花を用いた活用方法に関心を持ち、探求しようとしている。

	いる。		
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題、レポート
3 園芸療法	園芸療法の基礎的知識を身に付け、草花の利用がどのように関係しているか理解している。	園芸療法の実例を調査し記録にまとめ適切に表現している。	草花を用いた園芸療法に関心を持ち、探求しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	課題
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において、ＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、５段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	保育実践	単位数	3
学 年	3 年	教科書	保育実践（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①子供の表現活動、児童文化財などに関する知識と技術の習得を目指します。 ②保育活動の充実を図り、子供と遊びを通して触れ合うことのできる能力と態度を育てます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 子供の表現活動と保育	・造形表現活動・言語表現活動について理解します。
	2 保育の活動計画と実習	・保育所を訪問し、実習を通して子どもの成長や生活について理解を深めます。
2	3 子供の表現活動と保育	・音楽・身体表現活動について理解します。
	4 保育の活動計画と実習	・保育所を訪問し、実習を通して子どもの成長や生活について理解を深めます。
3	5 子育て支援と保育	・子どもや親が必要とする社会的支援とその背景について考えます。
	6 保育の活動計画と実習	・保育所を訪問し、実習を通して子どもの成長や生活について理解を深めます。
課題	①予習・復習…教科書やノートの見直し ②夏休み課題…子どもや保育に関するレポート作成 ③冬休み課題…手作りおもちゃの製作 ④そ の 他…プリント、レポート、実技テスト	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
子供の 表現活動と保育	・子供の発達と「造る」「描く」活動の変化を理解する。 ・子供の言語表現を育てる児童文化財や「話す」活動を理解する。 ・子供の身体表現について理解する。 ・演奏や絵描き歌など子供の音楽環境について理解する。	・表現活動の役割や重要性を学び、子供にどのような影響があるか考える。	・各分野の表現活動における子供の好奇心を育て、楽しさに気付かせる。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容
子育て支援と保育	・子育て支援の意義や役割を理解する。	・社会全体で子育てを支える方法を考察する。	・地域の子育て支援制度や各種施設があることに気付かせる。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容

保育の 活動計画と実習	・ 保育所等での訪問実習を通して、子供の成長や生活、子供の表現活動について理解する。	・ 子供への声かけや支援の方法を保育士の先生方から学び、発達段階に応じた関りを考えることができる。	・ 社会の中で子供がどのように捉えられ、保護者はどのような思いで子育てをしているか気付くことができる。
評価方法	・ 定期考査 ・ 実習の取組	・ 定期考査 ・ プリントの記述内容	・ プリントの記述内容
内容のまとめりに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	生活と福祉	単位数	3
学 年	3 年（選択）	教科書	準教科書 生活と福祉（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	①病気の予防や家族の健康管理について、基本的な知識と家庭看護の方法を学びます。 ②高齢者について理解し、基本的な介護技術とコミュニケーションスキルを身に付けます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 健康と生活 2 少子高齢化の現状と高齢者の特徴 3 高齢者の自立支援	・病気の成り立ちや健康について学びます。 ・高齢者の現状について理解します。 ・高齢者施設への訪問実習をします。 ・高齢者の自立と支援の方法を理解します。
2	4 高齢者支援の法律と制度 5 介護の実習 6 看護の実習	・高齢者を支援する法律について学びます。 ・高齢者施設への訪問実習をします。 ・高齢者の介護の方法を学びます。 ・家庭内における看護について学びます。
3	7 生活支援	・高齢者福祉の課題について理解します。 ・高齢者の介護の方法を学びます。
課題	①予習・復習…教科書やノートの見直し ②夏休み課題…福祉に関する新聞記事等を読んだレポート ③冬休み課題…福祉に関するレポート ④そ の 他…プリント、レポート、小テスト、実技テスト	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
健康と生活	・健康とは何か理解できる。	・ライフステージにおける健康管理についてどのような点に気を付ければよいか考えることができる。	・生涯を通じた健康づくりについて、考えを深めることができる。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況 ・レポート
少子高齢化の現状と 高齢者の特徴	・高齢者の心身の特徴と病気について理解できる。	・少子高齢化について高齢化率と高齢化速度について考えることができる。	・高齢者の体の変化や病気について関心を持つことができる。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況 ・レポート

高齢者の自立支援	・ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインについて理解できる。	・人間の尊厳について理解し、生活の中でどのように取り入れられているか考察することができる。	・自分の身の回りにどのような合理的配慮が実践されているか気付くことができる。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況 ・レポート
高齢者支援の法律と制度	・社会福祉制度や介護保険制度など高齢者支援の仕組みについて理解できる。	・高齢者支援の仕組みを理解し、地域共生社会とは何か考えることができる。	・法律や制度をどのような場面で用いることができるか、気付くことができる。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況 ・レポート
介護の実習	・介護の基礎知識を理解し、高齢者生活を支える介護を身に付けることができる。	・相手の気持ちに寄り添った介護について考えることができる。	・介護実習を通して、高齢者の体のメカニズムについて関心を持つことができる。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況 ・レポート
看護の実習	・家庭看護の基礎知識と家庭でのセルフケアを身に付けることができる。	・誰もが実践できる安全で適切な看護の方法を考えることができる。	・セルフケア能力の向上に努め、セルフケアの重要性に気付くことができる。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況 ・レポート
生活支援	・衣食住を中心とした生活支援について理解する。	・高校生としてどのような生活支援ができるか考えることができる。	・身近にある生活支援に関心を持つことができる。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況 ・レポート
内容のまとめりと、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	住生活デザイン	単位数	2
学 年	3 年	教科書	リビングデザイン（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	① 快適な住空間を計画し、デザインすることを目指します。 ② 住生活の文化や環境問題について考えます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 住生活と住居の変遷	・住居の変遷について学びます。 ・世界の住居や現代の新しい住居について学びます。
	2 住居と環境	・快適な住環境について学びます。
	3 住居の選択と管理	・家族周期と住居の間取りについて考えます。
2	4 住居の設計	・平面記号や平面図などについて学びます。
	5 インテリア	・インテリア小物を製作します。 ・インテリアの基本的な知識を身に付けます。
3	6 住生活の充実・向上	・学んだことを生活に生かします。
課題	① 予習・復習・・・教科書やノートの見直し、検定に関する学習 ② 夏休みの課題・・・住居に関するレポート ③ 冬休みの課題・・・インテリア小物製作 ④ その他・・・ノート、プリント、レポート、小テスト、実技テスト	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
住生活と住居の変遷	・日本や世界の住居の変遷や住居と生活様式との関わりを理解する。	・なぜ、風土に合った住居が必要なのか考えることができる。	・生活する上で住居に求めていることに気付く。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容
住生活と環境	・熱環境・光環境・音環境 ・水環境の整備について理解する。	・健康的で快適な室内環境について考えを深める。	・住居の環境について関心を深め。生活で実践できる。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容
住居の選択と管理	・住宅の購入や住居の維持管理について理解する。	・住宅の購入方法について必要な情報が何なのか考えることができる。	・住居選択実習から、住居に興味関心を持つことができる。

評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容 ・実習への取組	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組
住居の設計	・住居の構造について理解する。 ・平面図を作成する。	・テーマに合った平面図を作成し、立体を図面で考える。	・平面図を読み、ライフステージに適する住居に気付かせる。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・レポートの記述内容	・レポートの記述内容 ・実習への取組 ・定期考査	・実習への取組 ・レポートの記述内容
インテリア	・色彩の基本や内装材、収納計画の知識を身に付ける。	・インテリア小物を製作し、配置を考え、インテリアコーディネート思考を深める。	・自分の部屋のインテリア計画を立て、快適に過ごせる部屋づくりを行う。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・レポートの記述内容	・実習への取組 ・レポートの記述内容 ・定期考査	・レポートの記述内容 ・実習への取組
住生活の充実・向上	・日本の住宅事情について理解する。 ・参加型の住まい・まちづくりについて理解する。	・環境と共生したライフスタイルに必要な住宅とは何か考える。	・環境問題や社会問題と住居の関りに気付くことができる。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	服飾手芸	単位数	2
学 年	3 年（選択）	教科書	基礎から応用までの作品集 楽しくスクールソーイング（開隆堂）		
学 科	生活科学科	副教材	なし		

学習目標	① 手芸の種類、特徴および変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を身に付ける。 ② 手芸の楽しさを味わう。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 手芸の種類と特徴	・技法や特徴について学びます。
	2 手芸の変遷	・手芸がどのように時代とともに変化し、現在の生活に活用されているのか学びます。
	3 刺繍について	・刺繍の種類と基本的技法を学び、手芸作品の製作を行います。
2	4 編み物について	・編み物の種類と基本的技法を学び、手芸作品の製作を行います。 ・自分で編みたい作品を完成させます。
3	5 服飾材料としての各種手芸の技法	・各種手芸の技法の中から自由選択し、実用的な手芸作品の製作を行います。
課題	①予習・復習…教科者やプリントの見直し ②夏休み課題…刺繍に関する作品制作、レポート ③冬休み課題…自由作品の計画書作成 ④そ の 他…プリント・レポート・小テスト・実技テスト	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
手芸の種類と特徴	・刺繍、編み物、染色、織物など手芸の特徴を理解できる。	・作品に適した手芸技法を考えることができる。	・生活の中に手芸を取り入れ、豊かな生活を目指すことができる。
評価方法	・問題集 ・定期考査	・定期考査	・発言内容 ・実習・課題への取組
手芸の変遷	・手芸の起源から現在に至るまでの変遷について理解できる。	・生活の変化と手芸の変遷の流れを組み合わせる。考えることができる。	・時代に合った手芸について興味関心を持つことができる。
評価方法	・問題集 ・定期考査 ・技術検定	・定期考査	・実習・課題への取組
刺繍について	・刺しゅうの種類とその特徴、基礎的な刺し方を理解し、技術を身に	・完成度の高い仕上がりになるように手順の段取りを考えることがで	・楽しく意欲的に刺しゅうの製作に取り組むことができる。

	付けることができる。	きる。	
評価方法	・問題集 ・定期考査	・定期考査	・発言内容 ・実習・課題への取組
編み物について	・編み物の種類と特徴、基礎的な編み方の技法や仕上げについて理解し、技術を身に付けることができる。	・完成度の高い仕上がりになるように手中の段取りを考えることができる。	・楽しく意欲的に編み物の製作に取り組むことができる。
評価方法	・定期考査 ・プリントへの記述内容	・プリントへの記述内容 ・定期考査	・プリントへの記述内容 ・実習・課題への取組
服飾材料としての各種手芸の技法	・手芸の技法を理解し、自由作品を製作できる。	・選択した手芸技法に適した作品を考えることができる。	・習得した手芸技法を生活の中に取り入れ、意欲的に学ぼうとしている。
評価方法	・レポート ・実習への取組	・レポート	・プリントへの記述内容 ・実習への取組
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各楽器の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	ファッション造形基礎	単位数	4
学 年	3 年（選択）	教科書	ファッション造形基礎（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	家庭科問題集 被服編（全国高等学校家庭科教育振興会） 全国高等学校家庭科被服製作技術検定資料集 （全国高等学校家庭科教育振興会）		

学習目標	① 被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、被服の製作技術を身に付ける。 ② 被服製作やデザインに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 衣服の構成	・ 体型の特徴や動作によって適した衣服があることを学びます。 ・ 年齢や着脱によって生じる様々な変化や影響を理解します。 ・ 歴史の中での和服や、今日での位置づけを理解し、伝統的な和服の意義について理解を深めます。 ・ 和服の構成と製作に関する知識・技術を習得します。 ・ 被服製作技術検定 1 級（ひとえ長着）の合格を目指します。 ・ 着付けに必要な手順を理解します。
	2 和服の製作	
2	3 衣服の素材	・ 保温性、通気性、吸湿性、吸水性、透湿性、防水性など、様々な衣服材料の性能を理解します。 ・ デザインや着用目的など、用途に合わせた衣服材料を適切に選択し、取り扱える力を身に付けます。 ・ 快適に過ごすための工夫や身体の保護、保健衛生的な観点から、洋服の着装について考えを深めます。 ・ 洋服の種類に応じた適切な製作手順を身に付け、デザインを形にできる計画性と技術を向上させます。 ・ 検定に合格するための知識・技術を身に付けます。
	4 洋服の製作①	
3	洋服の製作②	・ 被服製作技術検定 1 級（ジャケット）の合格を目指します。 ・ 検定の事前作業や事後作業を行います。
課題	① 通常授業時の課題： プリント、検定実技に関する学習 ② 夏季休業中の課題： 技術検定の受検、残布を使った小物製作 ③ 冬季休業中の課題： 技術検定の受検	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 衣服の構成	・人体構造と被服の関係性、被服の構成に四つ特徴の違いなどを理解している。	・被服の構成方法による相違や動作のゆるみの関係性について課題を発見し、その課題を解決する力を身に付けている。	・被服の構成について自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況
2 洋服の製作	・和製作の基礎について理解し、和服（ひとえ長着）製作の技術を身に付けている。	・和服製作に関する課題を発見し、その課題を解決する力を身に付けている。	・和服製作の基礎について自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査 ・技術検定への取組状況	・定期考査	・技術検定への取組状況
3 衣服の素材	・被服材料の種類と特徴について科学的に理解している。	・製作する被服の用途に適した被服材料の性能について課題を発見し、その課題を解決する力を身に付けている。	・被服材料について自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・実習への取組状況
4 洋服の製作	・洋服製作の基礎について理解し、洋服（ジャケット）製作の技術を身に付けている。	・洋服の製作について課題を発見し、その解決する力を身に付けている。	・洋服製作の基礎について自ら学び、ファッション造形に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・小テスト ・定期考査 ・技術検定	・定期考査	・技術検定への取組状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各楽器の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	家庭	科 目	フードデザイン	単位数	4
学 年	3 年	教科書	フードデザイン（実教出版）		
学 科	生活科学科	副教材	調理実習ノート（愛媛県高等学校家庭科研究会）		

学習目標	① 栄養、食品、献立、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得します。 ② 生徒自身と家族の食生活について総合的に計画し、営む能力と態度を育てます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 食品の特徴・表示・安全	・食品の特徴と性質について理解します。
	2 フードデザイン実習	・調理についての基本的な技術を応用し高度な調理技術を身に付けます。
	3 家庭科技術検定食物 1 級の練習	・食物検定 1 級の合格を目指します。
2	3 家庭科技術検定食物 1 級の実施	・食物検定 1 級の合格を目指します。
	4 フードデザイン実習	・調理についての基本的な技術を応用し高度な調理技術を身に付けます。
3	5 食育	・食育の意義と課題を考えます。
	6 フードデザイン実習	・調理についての基本的な技術を応用し高度な調理技術を身に付けます。
課題	① 予習・復習・・・教科書やノートの見直し、検定に関する学習 ② 夏休みの課題・・・ホームプロジェクト（家庭生活に関する問題解決学習）、献立作成 ③ 冬休みの課題・・・行事食についてのレポート ④ その他・・・ノート、プリント、レポート、小テスト、実技テスト	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品の 特徴・表示・安全	・食品の科学的な特徴や性質を理解できる。 ・食品の衛生と安全について理解できる。	・食品の性質と調理の関りを把握し、食事作りにおいて適する食品の選択ができるよう考えを深める。	・食品添加物の取扱いや食中毒の現状など、普段の食事の安全性について意欲的に学ぼうとしている。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容
フードデザイン実習	・基礎的な調理技術を応用し、様々な調理題材について計画・調理ができるようになる。	・作成した献立に適した食品を選択することができる。	・食の役割に関心を持ち、献立作成・食品選択から総合的に捉えて計画する意欲と実践的な態度を身に付けようとする。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記述内容 ・実習への取組	・プリントの記述内容 ・定期考査	・プリントの記述内容 ・実習への取組

食物技術検定 1級	・ 供応食・行事食等の献立作成能力と調理の専門的技術を身に付ける。	・ 食品の栄養的特徴を理解して、課題に応じた日常食の献立作成および調理ができる。	・ 指定調理法、指定材料と分量を用い、主題にあった1人分の献立を作成し、調理することができる。
評価方法	・ プリントの記述内容 ・ 実習への取組 ・ 小テスト	・ プリントの記述内容 ・ 実習への取組 ・ レポートの記述内容	・ プリントの記述内容 ・ 実習への取組 ・ レポートの記述内容
食育	・ 食に関する知識と食を選択する力を身に付けることができる。 ・	・ 地域での共食を考え、自分の住む地域に適する災害時の備えを考察できる。	・ 年中行事や地域に伝わる食文化を意欲的に学ぼうとしている。
評価方法	・ 定期考査 ・ プリントへの記述内容	・ プリントの記述内容 ・ 定期考査	・ プリントの記述内容

内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。